

平成 27 年度 研究成果報告書
Research Achievement Report FY2015

Date: 平成 28 年 3 月 7 日

言語社会専攻長

日本語・日本文化専攻長 殿

To Dean of Studies in Language and Society

To Dean of Studies in Japanese Language and Culture

講座名・職名 Course Title・Job Title	ヨーロッパ・アメリカ I 講座・教授
氏名 Name	貴志 雅之
専門分野 Academic Field	アメリカ演劇

主たる研究テーマ Principal Research Subject	20-21 世紀アメリカ演劇の政治学研究
<p>本年度は主に以下の 4 つの研究プロジェクトの成果を発表した。これらの研究はすべて科研「20-21 世紀アメリカ演劇の政治学研究—1900 年からポスト 9.11」(期間:平成 24—27 年度)の一環としてなされたものである。4 つの研究プロジェクトの成果は以下の通り:(1) Edward Albee の <i>The Goat, or Who Is Sylvia?</i> (2002) における「幸福の追求と破壊」に関する研究:本作品を対象に 21 世紀アメリカにおける個人の幸福の追求と支配的イデオロギーとの衝突を巡る政治性と演劇表象の在り方を考察。その成果を「タブーを犯した成功者—<i>The Goat, or Who Is Sylvia?</i> における幸福の追求と破壊」と題して、日本アメリカ文学会第 54 回全国大会シンポジウム「アメリカ文学における幸福の追求とその行方」(2015 年 10 月 11 日, 京都大学)で発表。(2) 2014 年の日本ポー学会第 7 回年次大会シンポジウム「ポーとアメリカン・シアター」での発表をさらに展開し、「黙殺される劇作と劇評 — アメリカ演劇におけるポーのパフォーマンスとその評価」と題する論考を『ポー研究』第 7 号(日本ポー学会, 2015 年 3 月)で発表(同号の実際の刊行は 2015 年 9 月であることから本年度研究成果報告書に記載)。(3) 平成 26 年度 中・四国アメリカ文学会冬季大会シンポジウム「アメリカン文学における幸せの追求」での発表をさらに展開し、「子供の死とパラレル・ユニバース—デヴィッド・リンゼイ＝アベアーの『ラビット・ホール』をめぐって」と題する論考を大阪大学『英米研究』第 40 号(大阪大学英米学会, 2016 年 3 月)で発表。(4) 上記科研の本年度研究計画に即して、20 世紀転換期からポスト 9.11 の現代に至るアメリカ演劇の政治学の通時的流れと志向性を総括した 20-21 世紀アメリカ演劇の政治学研究の成果を、第 4 回関西大学英米文学英語学会年次大会(2015 年 10 月 17 日, 関西大学)で「アメリカ演劇の政治学—支配、歴史、他者」と題する講演で発表した。</p>	